

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における矢田北小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （1）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （3）各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・矢田北小学校では、5年生 21名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

矢田北小	学校	児童数	21
------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.85	16.08	38.31	37.92	33.23	10.54	144.85	21.85	48.69
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	16.14	13.25	38.88	38.00	37.43	11.63	127.88	12.25	50.71
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

男子は、長座体前屈とソフトボール投げにおいて、全国・大阪市平均より上回った。しかし、上体起こしや反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とびにおいては、全国・大阪市平均を下回った。特に50m走や20mシャトルランに課題があった。

女子は、握力や長座体前屈、20mシャトルランにおいて、大阪市・全国平均を上回った。しかし、上体起こしや50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げにおいては、大阪市・全国平均を下回った。特に50m走や立ち幅跳びに課題があった。

体力合計点では、男子も女子も全国・大阪市平均より下回る結果となった。

質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が、男子が69.3%、女子が87.5%であった。

「1週間の総運動時間が、60分未満の児童の割合」は、男子が25.0%（全国9.2/大阪市11.0）、女子が12.5%（全国16.1/大阪19.9）であった。女子の総運動時間は大阪市・全国平均より多いが、男子の総運動時間は大阪市・全国平均より少なかった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

アンケート結果から、この学年の児童は運動することに苦手意識を持っている児童が多い。その理由としては、運動が好きではなかったり、自身の記録に挑戦することがなかったりすることが挙げられる。しかし、体育の授業を通して、できなかったことができるようになる経験や、友達との交流をすることで、体を動かすことに楽しさを感じている。今後も体育の授業では、児童に達成感をもたせる工夫を進めていきたい。

今年度は、バドミントンやテコンドー、ポッチャと様々なスポーツの講師を招き、楽しみながらスポーツに触れ合う機会を設けた。学級でのみんな遊びや全校でのなわとび週間、ランランタイムなどの取り組みを設定し、体を動かす機会も設けた。本校は、運動場も広く、児童は広々と体を動かすことができる。遊具や鉄棒、一輪車、ボール等も充実しているので、多くの児童が外遊びを楽しめている。

男子は、50m走と20mシャトルランに課題があり、他の種目も底上げが必要である。そのためには走力の基礎を鍛える動きや運動を授業で導入する。そのほかにも継続してランランタイムや縄跳び週間などを行い、体力向上につながる活動に取り組みたい。そして、跳び箱等、個に応じた場の設定を行い、基本的な運動量を確保したり、トップアスリート夢授業などを活用し、専門家からの指導を受け、苦手意識をなくすようにする。また、走・跳の運動を扱う取り組みや場の設定を工夫し、50m走と20mシャトルランの記録向上にも取り組んでいきたい。

女子においては、部分的に記録がよく、アンケートの結果は肯定的な意見が多かった。このことから、運動やスポーツが好きであると感じている児童の方が記録も高いので、運動やスポーツが楽しいと感じられる取り組みや行事を取り入れることが記録向上に結びついていくと考えられる。また、家庭学習などで簡単に筋力アップできるものを取り入れていくことも有効的であると考ええる。